【カテゴリーI】

# ネパールの世界文化遺産登録都市における庇タイプから見た 都市型住居の外観意匠と増築・建替えプロセス

バクタプル東部のモニュメントゾーン内外を事例として

# EXTERIOR DESIGN OF TOWN HOUSES AND THEIR EXTENSION/RECONSTRUCTION PROCESS WITH REGARD TO EAVES TYPES IN A WORLD CULTURAL HERITAGE SITE OF A NEPALI CITY

The case study on inside and outside monument zone in the eastern part of Bhaktapur

# 山本直彦<sup>\*1</sup>, 高橋佳代<sup>\*2</sup>, 増井正哉<sup>\*3</sup>, 宮内杏里<sup>\*4</sup>, 向井洋一<sup>\*5</sup> Naohiko YAMAMOTO, Kayo TAKAHASHI, Masaya MASUI, Anri MIYAUCHI and Yoichi MUKAI

The paper deals with the exterior design of town houses both inside and outside monument zone of the eastern part of Bhaktapur in Kathmandu Valley registered as a World Cultural Heritage site in 1979. Analysis consists of following steps. Firstly, authors composed the original format of survey sheet on facades for Nepali town houses. Secondly, the paper submits a hypothesis on extension/ reconstruction with regard to 'eaves types' defined by the paper. Then the paper compared façade designs by eaves types inside monument zone with those outside monument zone. Finally, Eaves types are confirmed with reconstruction or floor extension period.

Categories

А

в С

D

Keywords: Nepal, Bhaktapur, Town Houses, World Cultural Heritage Site, Exterior Design, Eaves Types ネパール,バクタプル,都市型住居,世界文化遺産,外観意匠,庇タイプ

#### 1. 研究の背景と目的

ネパールのカトマンズ盆地のカトマンズ、パタン Patan、バクタ プル Bhaktapur の三大都市は、1979年に世界文化遺産に登録された。 しかし、近代化に伴い急速に町並みの変化が進み、2003年に一時は 危機遺産リストに登録された。カトマンズ、パタンは面的に一体と なるほど市街化が進んだが、やや離れたバクタプルは、三大都市の 中では比較的よく伝統的な町並みを残している。一方で、2015年4 月のネパール・ゴルカ地震では、盆地内外の多くの建築物が被害を 受け、本稿が対象とするバクタプルも多くの建物が倒壊した。幸い、 バクタプルのモニュメントゾーン注1) (= プロパティ+バッファーゾ ーン、以下、「MZ」と省略)内の調査対象範囲の都市型住居(以下、 町家)は、表1に示したように建物の残存階数から見ると、居住不 可能なほど倒壊したのは1割程度(分類A)に留まり、被害が少な いほうであった1)注2)。一方で、街区がほとんど倒壊したところもあり、 こうした町家の再建に当たっては、MZ 内の建物を参考にするなどし、 修景の指針をより具体化することが望まれる。

筆者らは、バクタプルを事例に都市組織的な視点<sup>2)</sup>と外観意匠的 な視点の両方から研究を進めてきた。両者は都市を捉える平面的な 視点と立面的な視点だが、本来、個別に成立しているものではない。 都市組織的視点から都市形成過程を解明すれば、外観意匠の時代変 遷を都市史的な視点から説明できる可能性があるからである。本稿 は、外観意匠的な視点に立つ研究の第一報である。本稿では、まず、

#### 図1に外観調査の対象建物とその用途を示した。対象はバクタプ

ル東部のダッタトラヤ寺院の建つタチュパル Tachapal 広場周辺と主 要街道注3)沿いの建物で、MZ内104棟、MZ外73棟の計177棟とした。 バクタプル東部のタチュパル広場付近のバナラヤク Vanalayaku とい う場所に初期の王宮が建設されたと言われ<sup>3)注4)</sup>、東部が古くはバク タプルの中心だったことが調査地区の選定理由である。角地に建つ 建物は、すべて正面を主要街道または広場に向けており、これを調 査面とした。図1には角地の調査立面も併せて示した。建物類型は、

Table 1 Categories on Affected Builidings Corresponding to EMS-98

ネパールの町家について外観意匠調査シートを作成し、外観意匠の

調査手法を確立する。その上で、町家の外観意匠の違いや時系列的 変化を把握する指標として、「庇タイプ」を設定する。庇の取り付け

階の違いに、建物の建設年代や増築・建替えの歴史を読み取ること ができると考えるからである。本稿は、こうした読み取りを行う上

で庇タイプが持つ妥当性を検証することを目的とする。また、庇タ イプ単位で MZ 内外の外観意匠の比較を行い、その違いを効果的に説

three storeys survived 15 Grade 4 all storeys survived 111 Grade 1-3 intact or slightly damaged (RCC structure) 16 Grade 1 for RCC

Description

totally collapsed or one/two storeys suvived three storeys survived

明する指標としての庇タイプの有効性も示したい。

2. 調査および調査地区建物の概要

Number

EMS-98

16 Grade 5

* 1	奈良女子大学研究院生活環境科学系	准教授・博士(工学)	

- 日本総合住生活(株) 学十(生活環境学) \* 3
- 京都大学大学院人間・環境学研究科 教授・博士(工学) 奈良女子大学大学院人間文化研究科 \* 4
- 博士後期課程·修士(生活環境学)
- 神戸大学大学院工学研究科 准教授・博士(工学)

Assoc. Prof., Faculty of Human Life and Env., Nara Women's Univ., Dr.Eng. IS Corporation B.A. Human Life and Environment Prof., Grad. Sch. of Human and Environmental Studies, Kvoto Univ., Dr.Eng. Doctoral Candidate, Graduate School of Human Culture, Nara Women's Univ., M.A.

Assoc. Prof., Grad. uate school of Engineering, Kobe Univ., Dr.Eng.

MZ 内で 80% 以上、MZ 外で 90% 以上が町家である。その他、広場に面 して、マート math (ヒンドゥー教寺院)やバハ bahal (仏教僧院)が ある。また、ディオチェン dyo chhen (神の家)が散在している。

本調査は2015年10月に外観意匠調査シートを用いて行った。調 査シートの項目及び選択肢については、2015年8月にダッタトラヤ 周辺での予備調査で妥当性を検討した。さらに、2016年10月に、 調査対象とした町家について建設年代と増築年代の聞き取りを行っ た。調査シートは、英語版も作成し、バクタプルのクウォパ工科大 学との共同調査として行った。なお、図2の階数表記は、原本のま まイギリス式(接地階はGF)、本文とその他の図表についてはアメ リカ式(接地階は1F)とした。

#### 3. 既往研究

ネパールについて文化財レベルの寺院建築等を扱った既往研究は 多い。Purscha (1975)は、カトマンズ盆地の小都市とその建築物を 網羅的に取り上げ、世界文化遺産登録のきっかけとなったインベン トリーである<sup>40</sup>。これは、ネパールの歴史的建造物の最初のリスト アップであると同時に、その後、他国で世界文化遺産登録を目指す 場合のインベントリーの見本となったことでも知られる。また、こ の分野の第一人者の研究としては、近年、Gutschow (2011)にその 研究成果が集大成がされた<sup>50</sup>。一方、本邦からは、日本工業大学グ ループによる厚い研究蓄積<sup>60</sup>や佐藤 (2012)による盆地三大都市 の寺院実測を行った研究などがある<sup>70</sup>。特にバクタプルについて は、1974 年からドイツの援助により歴史的建造物の保全を中心とし た Bhaktapur Development Project (BDP)が開始された。その実績は、 Prajuli (1986)<sup>80</sup>に纏められている。これには、バクタプルのマッラ 朝様式の町家分布図も収められている。

続いて民家について既往研究を見たい。盆地外については、世界 文化遺産から外れているためか、極端に研究蓄積が少ないが、いわ ゆる農村住居については Toffin(1991)が代表的である<sup>90</sup>。本邦からは、 東京大学の原研究室(1978)がインド・ネパールの集落を調査し、 集落構造と民家の特徴を明らかにしている<sup>100</sup>。

盆地内の民家研究は、本稿と同様に、町家を対象としているもの が大半である。その代表が Korn (1976) である<sup>11)</sup>。Korn は、王宮 や寺院建築とともに、町家についても外観の特徴や開口部の様式変 遷などについて述べている。Scheibler (1988) は、バクタプルで同 様の研究を行い、ネパールの都市型住居の起源のひとつとされる仏 教僧院からマッラ朝(-1768)、シャハ朝(1768-1846)、ラナ朝(1846-



Fig.1 Survey Area, Monument Zone and Building Types in Eastern Bhaktapur

1951)時代の町家の外観や平面構成の特徴について詳しく記述している<sup>12)</sup>。また、本邦から谷内と塩谷(2009)が、住まいの空間構成と ネワール族の空間概念についての一連の研究を行っている<sup>13)</sup>。

黒津ら(2003)は、本稿と近い研究である。パタンにおいて主に ラナ様式(新古典主義)の町家が並ぶ通りで、付け柱の様式といっ た外観意匠の詳細を明らかにした<sup>14)</sup>。一方で、本稿は、特に様式や 外観意匠の対象部分を限らず町家の外観意匠全般を扱っている。

最後に景観的視点から重要な文献として、Ranjitkar (2006)を挙 げておきたい<sup>15)</sup>。危機遺産リストからの離脱対策の一環として作成 された Heritage Homeowner's Preservation Manual には、建物高さや壁 面位置などの建物の配置に関わる修景指針が提示されている。

#### 4. 研究方法と本稿の考察の流れ

研究方法と考察の流れは、次のとおりである。①まず、既往研究 を参考にした上で、町家外観全体の特徴を把握するための外観意匠 調査シートとその作成過程について述べる。②調査シートの記録項 目を用いて、規模、時代、様式、増築・建替えの履歴などが異なる 町家の外観意匠を整理して分析を行うために、前提条件となるネパ ールの町家の断面方向の分割相続を説明する。その上で庇の取り付 け階を集計・分類することによって「庇タイプ」を定義する。4階 建て以上の町家は、上階の増築または建替えを経ていると考えられ る。そこで、後述のように室用途の階層性が増築や建替えを経ても 保たれていることを前提に、階数に関わらず居間のある階に設置さ れる庇を手がかりにすれば、町家の増築・建替えの段階を推定でき るのではないかと考えた。調査シートによる情報収集が、外観意匠 全体をバランス良く記録する目的であるのに対し、庇タイプは、増 築・建替え段階の推定のためだけでなく、調査シートで記録した町 家の特徴を簡便に要約して把握するためのものでもある。③組積造 の建物は、必要に応じ上階を増築するのが一般的と考えられる。増 築や建替えによって、庇の取り付け階も変化すると考えられるため、 庇タイプによる町家の増築·建替え仮説を提示する。④一方で、外 観調査の結果分析を庇タイプごとに行って、MZ 内外で外観意匠要素 の分布や特徴について考察する。⑤補足調査として聞き取りした建 設年代や増築年代と庇タイプとの対応関係を考察し仮説を検証する。

#### 5. 外観意匠調査シートの作成

今回作成した外観意匠調査シートを図2に示す。外観意匠調査シ ートの調査項目は、構造や用途など主屋の基本情報と外観意匠要素 に分けた。外観意匠要素は、立面全体の情報を記録するために、ま ずフレーム(規模)、シルエット(断面形状)、パート(仕上げ)、エ レメント(細部意匠)の4つの階層に分けた上で、それぞれ、より 詳細な調査項目を設定した<sup>注5)</sup>。

基本情報のうち構造は、図3に示した4種類がある。伝統的な組 積造と近代的なRC造(枠組み組積造)の間に、両者の混構造(組積 造+RC造ルーフトップ、組積造+RC造床・梁(写真1))が見られる。

フレームは、建物高さと間口幅についてである。前者は、階数と して基本情報で記録した。Scheibler (1988)は、マッラ様式は3 階建 て、シャハ・ラナ様式は4 階建てと述べるが注6、増築・建替えで5 階建て以上となることがある。マッラ様式では、寝室である2階の 階高が他階より低い特徴があり、チェック項目とした。

Buildi	ng No. ジェラガ	「リ西08 survey number 115 name takahashi Date 2015/10/23						
	Area	Core zone Buffer zone Out of buffer zone						
	Building style	◯ Malla  ④ Shah  ○ Rana  ○ Modern  ○ unclear						
Bas	Storey	⊖ground ⊖1st ⊖2nd ⊝3rd ⊖4th ⊝5th						
sic informa	penthouse	○ 3rd ○ 4th ○ 5th ● no penthouse 1 2 3 4 5						
	Extension storey	X 3rd X 4th 5th no extension storey						
tion o	Types of residential	① ①Intact courtyard house   ④U-shaped dwelling unit + detached house   ○ Unclear						
fthe	unit model	©©Courtyard dwelling unit ©©Detached house on sideway						
64		3Detached house other						
use	Use of the ground floor	Storage X Shop Stable Living space Pati Tunnel Unclear						
	Empty house	O not empty house O Unclear						
	Building type	House Math Buddhist monestery Dyochen other Unclear						
	Structure	Masonry         Masonry wall + RC floors         RC         Unclear           Masonry wall + RC column & beam         Masonry + RC rooftop         Wooden						
	Corner plot	Yes on the corner No on the corner						

Appearance and design elements	Frame	Floor heig	ht of 1st floor O Lower than other floors O same as other floors O Unclear	
		Frontag	measured value 5.354	
	Silhouette	Roof typ	e★ ①Gable ②2Hipped roof ③3Hipped and gable roof ×3Pent roof ×5Flat roof □Unclear	
		Roof terr	ace 3rd 4th 🛪 5th no roof teracce	
		Eaves	ground 1st X 2nd X 3rd 4th 5th no eaves	
		Balcon	y(a) 1st 2nd X 3rd X 4th 5th no balcony	
		Cantileve	r(b) 1st 2nd 3rd 4th 5th x no cantilever (a) (b)	
		Strut	Roof Eaves X Balcony Cantilever no strut	
	_	Roofir	g* Customary rooftile other rooftiles Collugated iron sheet Concrete others Unclea	
		Eave	S Customary rooftile other rooftiles X Collugated iron sheet Concrete others Unclea	
		Gro	und Fired brick Clay brick Plaster Paint Mortar Pillar other Unclear	
		) uter	st   Fired brick  Clay brick  Plaster  Paint  Mortar  other  Unclear	
	art	Wa	Ind • Fired brick Clay brick Plaster Paint Mortar other Unclear	
		finia 3	Ird Fired brick Clay brick Plaster Paint Mortar other Unclear	
		shing 4	th Fired brick Clay brick Plaster Paint Mortar other Unclear	
		1	th Fired brick Clay brick Plaster Paint Mortar other Unclear	
		Brick bo	nd 🔀 Clay 🗌 Mortar 🗌 not visible	

Description Mood Transfoor Rolling steel shutter pillar(Daran)

		Door	Matorial	no naint	Varnished X Blue Bed White Brown other colors
			Paint	- no paine	
			Ground	The number of	door and window 00 01 02 03 04 05 0 over 6
				Opening patter	m (1) (2) × (3) (3)-1 (4) others
			50	: ]][ ==	
			1st ·	The number of Opening patter	window         0         1         0         3         4         5         over 6         not visible           m         (1)         (2)         X         (3)         (4)         (5)-1(Flush)         (5)-2(Projected)         other
			E	Jociza	
				The number of	(2) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3) (3
Ą			2nd	Onemine netter	mt (1) (2) x (3) (4) (5)=1(Elush) (5)=2(Projected) other
bear	Eler			The second second	
anc	nent		3rd -	Opening patte	rn (1) (2) (3) (4) (5)=1(Flush) (5)=2(Projected) X other
e ar		\$		The number of	
d d		Indov	4th	Opening patte	rn (1) (2) (3) (4) (5)=1(Flush) (5)=2(Projected) x other
Sig.		~		The number of	
0			5th -		rn (1) (2) (3) (4) (5)=1(Eluch) (5)=2(Projected) other
eme			Detected	"u" come	excured lat 2nd 2nd 4th 5th Y as retained "H" frame
nts			Rotated	ri trame	ground ist 2nd 3nd 4th 5th Max all shared documentar
			Gill-shap	bed decoration	ground 1st 2nd 3rd 4th 5th X as lattice
				attice	
			Pe	ediment	ground Ist 2nd 3rd 4th 5th X no pediment
			R	ecycle	ground 1st 2nd 3rd 4th 5th X no recycle
		F	Podium	◯ Single ◯	Double O Triple O no podium
		Smoke outlet O exist O n		🔿 exist 🔿 r	io exist 🔷 unclear
		Woodcarving* Window fr		Window fra	me Lattice Pillar Strut X no woodcarving
		Cornice★         X betwee           (end of timber)         b/w 1s           Pilaster         ground           Vertical division         exist		× between g	round and 1st b/w 2nd and 3rd b/w 4th and 5th
				b/w 1st ar	ad 2nd b/w 3rd and 4th no cornice
				ground	
	Off			🔾 exist 📿 r	10 exist 🖉 unclear
	hers	Water tank Antenna		⊖ exist ⊖ r	no exist 🔵 unclear
				🔾 exist 🔹	no exist 🗌 unclear
		Condition		Weeds on ro	of Thrusted wall Discoloration on bricks Fungi no deterioration
				Unstuck roo	f tiles Crack on wall X Peeling on finishing X Erosion

Fig.2 Exterior Design Elements Survey Sheet

シルエットのうち屋根形状には、Scheibler (1988) によれば、切妻、 寄棟などの一般的な傾斜屋根と、片流れ、陸屋根があるという<sup>注7)</sup>。 現在よく見られる片流れは、従来の屋根裏の壁面を立ち上げ、その 屋根を緩いトタン葺きとしたものである(写真4)。また、伝統的な 町家には無かったルーフテラスやペントハウス(階段室等)、バルコ ニーは、階数が増加し下階の日照が遮られたために設けられたとい う<sup>注8)</sup>。シルエットには、こうした増改築により変化したかたちも含 めたが、Ranjitkar (2006) では、現代的なバルコニー設置は推奨され ていない<sup>注9)</sup>。その他、腕木は、町家に限らずネパール建築の特色の ひとつである。木彫が施され軒庇や出窓を支える部材である<sup>注10)</sup>。

パートは、屋根と壁面の材料である。屋根材料は、伝統的にはジ ンガティjhingati と呼ばれる小さめの桟瓦(写真5)を使ったが、近 年は、より大きな種類の桟瓦が使われる<sup>達11)</sup>。壁面材料には、日干し レンガと焼成レンガがあるが、後者が一般的である。焼成レンガには、 外観側に台形断面の底辺が現れる形をしたダチ・アパ dachi apa と通 常の長方体のマ・アパ ma apa がある。ダチ・アパは、外側に目地の 接着材料を見せない<sup>達12)</sup>。レンガ目地の接着材料は、泥目地、石灰目 地、モルタル目地がある<sup>達13)</sup>。調査シートでは、レンガの接着材料と 目地の見えの有無を記録できるようにした。

エレメントは、ネパールの町家の外観意匠上の重要な特徴である 開口部が中心である。1階と2階以上に分けてパターン化した。1階 は窓でなく出入り口やダラン dalan (写真7) と呼ばれる店舗用の列 柱開口部を持つからである。開口部の選択肢は、Korn (1976) による 開口部の変遷図注14) を参考とし、予備調査で見られた組み合わせパ ターンを追加した。特に3階ではサジャ sajhya と呼ばれる木彫と格 子を持つ3連窓が特徴的である (写真8)。これは出窓の場合と壁面 内に収まる場合を区別した。以上に加えて、窓格子注150、木彫、ラナ 様式とともに普及したと考えられる水平の蛇腹(コーニス)や付柱 なども記録した。なお、7章で庇タイプ別の分析に取り上げた項目 については、図2の該当項目の右肩に★印をつけた。

#### 6. 庇タイプと町家の増築・建替えの推定

本章では MZ 内外で単純に調査結果の比較を行うのではなく、建物 の類型化を行った上で比較を試みたい。以下では、階数・断面構成 を条件とした「庇タイプ」という分類概念を導入して考察を進めるが、 まずは、庇タイプを規定する条件について述べていきたい。

#### 6-1 庇タイプを規定する関連項目の分布

(1) 階数の分布:図4に調査範囲における階数分布を示した。MZ内 は1 階建てと2 階建てが合わせて25%だが、これは広場北側のボカ リ(ため池)を囲む狭小店舗などが含まれるためである。3 階建て と4 階建てがそれぞれ30%ずつ、5 階建て以上が15%ある。5 階建 て以上の高層の町家は主要街道沿いに集中している。1970年代にド イツの援助によるBDPで修理を受けたプロパティ<sup>注16)</sup>など、広場を 中心に伝統的な3 階建てが、良い保存状態で残る。

MZ 外では3 階建ては約10%であり、4 階建てが60%を占める。2



Fig.3 Original Stucture and Modern Variations of Nepali Townhouses



Fig.4 Distribution of Building Storeys

階建て以下が、15%程度ある。多くは、2015年地震で3階以上が倒 壊したか、地震後に安全のため3階以上を取り壊したものである。

ネパールの町家の断面構成は、伝統的に1階にトイレ・倉庫、2 階に寝室、3階に居間、屋根裏に台所のように室用途には垂直の階 層性があり<sup>注170</sup>、5章で述べたように元は3階建てである。居間があ る3階には軒庇と壁付きまたは出窓の連窓が設けられていた<sup>注180</sup>。2 階建て以下は、専用店舗や被災して取り壊された等、特殊な場合で ある。庇タイプは、主に3階建て以上の建物に注目して考察したい。 (2)各階庇の分布:MZ内外ともに3 階に庇か軒庇を持つものは、合 わせて3~4 割(MZ内34/104例、MZ外30/73例)である。図10で 3階傾斜庇タイプ、3,4階傾斜庇タイプ、3階水平タイプ、3,4 階水 平庇タイプの4つの重ね合わせが、3階庇の分布となる。MZ内の広 場を囲む建物は、ほとんど3 階に庇・軒庇を持ち、庇が連続する景 観を形成している。MZ内の主要街道沿いでは3 階に庇・軒庇を持つ 町家は連続していないが、MZ外の街路北側では連続している。

4 階に庇・軒庇を持つ町家は、MZ内に約1/4(24/104例)、MZ外 に4 割弱(26/73例)あった。図10で4階傾斜庇タイプ、3,4階傾 斜庇タイプ、4階水平タイプ、3,4階水平庇タイプの4つの重ね合わ せが、4階庇の分布となる。それらは街路や路地沿いに多く見られた。 MZ内では、3 階庇より4 階庇が連続している傾向があり、MZ外では、 3 階庇が4 階庇より連続している傾向がある。

#### 6-2 庇タイプの前提条件としての町家の間口分割相続

ネパールでは相続にあたって、土地は間口を二分割するのが一般 的である。そのため上物の相続も、階間で水平分割されることはなく、 間口幅を二分割して相続する。これは、外観からも判断できる。建 物の縦半分片側が建替えされていたり、建替えていない場合には中 央の窓の中心に間仕切り壁が設置される。図5に、間口相続分割が 見られた建物の分布を示した。地籍図と上物を照らし合わせた結果、 図中凡例に示したように、①同じ地番で枝番があり、建替えされて いないが、内部に間仕切り壁があるもの、②同じ地番で枝番があり、 少なくとも片方の間口側が建替えられているもの、③同じ地番で枝 番があるが、建替えも内部間仕切り壁も無いもの、④枝番の無い同 じ地番だが、少なくとも片方の間口側で建替えがあるか、内部間仕 切り壁があるもの、の4パターンがあった。上物が分割される場合は、 いずれも垂直方向に分割している。これは、続いて断面方向を単位 として庇タイプを考える重要な前提である。

6-3 庇タイプの定義・分類と庇タイプ別構造



全177棟の調査データから作成した庇の構造と取り付け階×建物 階数マトリックスを図6に示し、3階以上の建物138棟(MZ内76、 MZ外62:3階建て以上で庇のないものを含む)について7タイプに 分類した。本稿では、これを「庇タイプ」と呼ぶ。まず、構造的に 傾斜庇と水平庇を区別し、次に庇の取り付け階によって分類してい る。主に3階と4階の庇の有無に着目しているのは、5章で述べた ように、マッラ期に町家の完成形としての3階建てが出現し、続く ラナ期に4階建てが出現したので、外観意匠上は、3階と4階が重 要だからである。各庇タイプは、壁面に取り付けられた庇に加えて、 3階建てか4階建てでの最上階では屋根の軒庇を含む。写真2に、 各庇タイプの典型と考えられる事例の写真を掲載した。

庶タイプを集計したところ、最も多いのは、3 階と4 階の両方に 傾斜庇が付く3,4 階傾斜庇タイプで、MZ内19棟+MZ外22棟の計 41棟であった。次いで3 階傾斜庇タイプ<sup>注19)</sup>が多く、MZ内26棟+ MZ外10棟の計36棟であった。MZ内で3 階建て、MZ外で4 階建て が多く見られた。3 番目は、3,4 階水平庇タイプで、MZ内13棟+MZ 外14棟の計27棟であった。全体に傾斜庇が主流でMZ内に多い。

図7に調査範囲の町家の構造分布と庇タイプごとの構造の内訳を 示した。7種類の庇タイプを、同型の庇をまとめるように左から傾 斜庇グループ(3階傾斜庇タイプ、3,4階傾斜庇タイプ、4階傾斜庇 タイプ)、水平庇グループ(3階水平庇タイプ、3,4階水平庇タイプ、 4階水平庇タイプ)、3階建て庇なしタイプのように並べた。3階建 て庇なしタイプ<sup>注20</sup>(6/6例)と傾斜庇グループ(86/93例)は、ほ ぼ組積造である。水平庇グループ(28/39例)は完全なRC造を中心 に、組積造とRC造の混構造(10/39例)であることが分かる。詳細 に見れば、調査範囲全体で傾斜庇グループのうち組積造以外のもの は、わずかな混構造(組積造+RC造ルーフトップ:7/93例)だけで ある。つまり、傾斜庇グループの主体構造は、組積造であると断定 できる。水平庇グループの混構造は、RC造ルーフトップ(3/10例) よりRC造床・梁(7/10例)が多く、混構造でもRC造化が進んでい ることが分かる。水平庇グループのRC造の割合は、MZ内(12/17例) )とMZ外(16/22例)で大きな差は見られない。

#### 6-4 庇タイプから見た増築・建替えプロセス仮説

間ロ分割相続と室用途の階層性が保たれることを前提に、庇の取 り付け階から予想される室用途を図8中の建物各階に記入した。こ うした各階構成の断面で3階と4階に庇が付くタイプと4階にのみ 庇が付くタイプについて次の仮説を提示したい。





【図8上: 増築仮説】:3階と4階に庇が付く町家は、①元は3階建 てだったが、4階を増築した。②3階を居間から寝室にし、4階に居 間が移動した。③それに伴い4階に庇を設置した。

【図8下:建替え仮説】:4階のみ庇が付いた町家は、①老朽化等で 建替えを行い、②建替えの際、2階と3階に寝室を設け、居間を設 けた4階にのみ庇を設置した。

以上の庇タイプ間の部分的な仮説と前節で見た庇タイプの構造を 合わせて考慮し、図9に3階以上の庇タイプ間全体の増築・建替え

Fig.8 above: Storey Extension below: Reconstruction

L

B

B

s/wc

L

B

В

s/wc

L bui∧ow

В

В upstars

demolition

reconstruction

new eaves-

s/wc

L

В

s/wc

L

В

s/wc

(1)

Without eaves

3 store

Photo 2 Eaves types

middle: Flat eaves group

below: Without eaves

above:Pitched eaves group

プロセスの仮説ダイアグラムを示した。図中の各庇タイプの断面図 は、原則的に図6で各庇タイプのうちで最も多いもので代表した。 縦軸は、傾斜庇グループ、水平庇グループ、庇なしとし、前節で見 たグループごとの構造の違いも明記した。横軸は、庇の付いている 階で分類した。傾斜庇グループでは、3階傾斜庇タイプ(図9上段 左)を増築のない基本形の庇タイプとした。3,4階傾斜庇タイプ( 上段中)を、これに4階を足した増築、4階傾斜庇タイプ(上段右) を建替えとした。水平庇グループでは、出発点を3階水平庇タイプ (中段左)とし、傾斜庇グループと同様の変化を考えた。また、庇 を持たない3階建て庇なしタイプ(下段)を以上と区別した。

庇グループ間を横断した変化(図9点線矢印)として、前節で組 積造が中心であったことを見た傾斜庇グループの庇タイプが、RC造 が中心の3階水平庇タイプ、4階水平庇タイプに建て替わる場合が 考えられる。また、3階建て庇なしタイプは、組積造なので、4階 傾斜庇タイプの上部が崩壊したものを含むと推察される。

# 7. 庇タイプごとに見た MZ 内外の外観意匠要素の比較

#### 7-1 庇タイプの分布

図10に各庇タイプの分布を示した。広場、広場東から延びるMZ 外の主要街道に3階傾斜庇タイプ、3,4階傾斜庇タイプといった図 9で3階までは古いと考えた町家が多く存在することが分かる。一 方で広場西から南西に延びる主要街道沿いには、各タイプが混在し つつも、4階傾斜庇、3,4階水平庇タイプといった図9で建替えを経 たと考えた町家が多く存在している。

#### 7-2 庇タイプから見た外観意匠の特徴

以下では、【フレーム】間口、【シルエット】屋根形状、【パート】 屋根材料、1階外壁仕上げ、【エレメント】1階・3階開口部パターン、 木彫、水平帯の7項目を取り上げて、庇タイプごとの外観意匠要素 の特徴を見る。



Fig.9 Hypothesis on Storey Extension and Reconstruction Process

(1)【フレーム】間口幅(図11):間口幅は、すでに述べた町家の垂 直分割相続に関係がある。このため、まず、垂直分割の確認された 町家とそうでない町家を、さらに MZ 内外に分けて間口幅の箱ひげ図 (図12)を作成した。各分類の事例数や四分位点等の値は、図12左 の表に示したとおりである<sup>注21)</sup>。分割を経た間口は、MZ 内では分割 を経てない間口に比べて短いが、MZ 外では、あまり変わらない。つ まり、MZ 外では分割可能な宅地は、あまり多く残っていないことが 読み取れる。また、図11で庇タイプ別に間口幅を見た場合、MZ 内 外とも、増築を経たと推測される3,4F 傾斜庇タイプに、2.99m 以下 を始め狭小な間口が高い頻度で見られる。増築は、狭小な間口の町 家の必然であったと考えられる。

(2)【シルエット】屋根形状と【パート】屋根材料(図13、表2): 屋根形状を見ると、3階傾斜庇タイプを中心に切妻・寄棟・入母屋 が見られる。MZ内では、こうした傾斜屋根が1/4以上(20.5/76例<sup>性</sup> <sup>22)</sup>)を占め、片流れを含めれば2/3近い(48.5/76例)。図9で増築 と考えた3,4階傾斜庇タイプは、ほぼ片流れか陸屋根である。片流 れは、屋根裏壁面を積み上げて室内化しトタン屋根をかけたもの(写 真4)、陸屋根は増築時にルーフトップをRC造としたものである(図 3②)。4階傾斜庇タイプでは傾斜屋根(切妻・入母屋・寄棟)は見 られず、仮説通り、建替えられた可能性が高い。水平庇グループは 陸屋根(15/17例)が大半で、混構造やRC造と強く関係している。

一方、MZ外では、どの庇タイプも片流れや陸屋根が多くを占めて おり、増築・建替えを経ていると推測される。水平庇グループは、 ほぼ全てが陸屋根であった(20/21例)。表2に屋根形状と屋根材料 の対応関係を示した。MZ内では、切妻・寄棟といった一般的な傾斜 屋根は桟瓦(写真5)、片流れはトタン、陸屋根はコンクリートのよ うに明確な対応関係がある。傾斜屋根の事例が少ないものの、MZ外 も対応関係は同じである。

(3)【パート】1 階外壁仕上げ(図 14): MZ 内外ともに、ほとんどの 庇タイプで焼成レンガの外壁が多数を占める結果となった。傾斜庇 グループ(67/93 例 =72%)より水平庇グループ(30/39 例 =77%)で焼 成レンガの割合が高く、建替えで、よりレンガの連続する町並みに なったと判断できる。MZ 内の特徴として、4 階傾斜庇タイプで漆喰 の割合(3/9 例)が高いことがあげられる。漆喰は19 世紀後半から 20 世紀前半のラナ時代に新古典様式とともに用いられ注<sup>23)</sup>、4 階建て も同時に出現したと考えられる。

(4) 【エレメント】1 階開口部パターン(図 15): MZ 内では、3 階傾





斜底タイプ・3,4階傾斜底タイプで、比較的古い様式で①と②のま ぐさと框が方立から突出した(「工」型)枠扉(15.5/76例)が見ら れる(写真6)。MZ外では少数である(5/62例)。MZ内外とも4階 傾斜底タイプや水平底グループには、この枠扉は見られず、建替え 前の町家の特徴と考えられる。また、水平底グループでは④長方形 枠扉(MZ内12/19例、MZ外18/22例)がほとんどである。3階傾斜 底タイプから③柱列が多く見られ、店舗に使われるダラン(写真7) は、まだ3階建てが標準だった当時から存在したと考えられる。 (5)【エレメント】3階・4階開口部パターン(図16):ここでは庇 が付く階の開口部パターンを考察する。ネパールの町家は3階(か つての最上階)中央に大きな連窓を持つ特徴がある(写真8)<sup>は24)</sup>。 3階傾斜庇タイプと3階水平庇タイプは3階底、3,4階傾斜庇タイプ と3,4階水平庇タイプは3階と4階それぞれの底、4階傾斜庇タイ プと4階水平庇タイプは4階庇について集計した。また、バルコニー・



室内化されたバルコニーは、近代化されているが出窓に準じるもの と考え、どちらかが付いているものは図 16 下の開口部パターン⑤+ バルコニーとして数えた。

特徴的な③や④-2の連窓の出窓を持つのは、MZ内で3階傾斜庇 タイプか3,4階傾斜庇タイプどちらかの3階がほとんどである。MZ 外にも連窓はあるが、出窓はほとんど無く、基本的に④-1壁面内の ものに限られる。MZ内に多い3,4階傾斜庇タイプの4階窓は、ほと んどが、特徴の無い⑤か⑤+バルコニーである。特に前者を居間に 用いるとは考えにくく、増築と考えた4階は従来は屋根裏であった 台所が完全な天井高の部屋となったものの可能性もある。この旨、 図9の仮説に留保を加えた。また、4階傾斜庇タイプは、MZ外で④ -1連窓が少数あるが(2/7例)、大半は⑤であった(MZ内9/9例、MZ 外5/7例)。建替えを経て特徴的な窓を失ったと推測される。

水平庇グループは、MZ 内外とも3階が⑤、4階が⑤+バルコニー と共通の特徴を示す。MZ 外で②、④-1、④-2 が各1 例程度見られ、 古材転用の可能性がある。

(6) 【エレメント】 木彫と窓格子 (図 17): 木彫は、調査シート項目

の窓枠(写真9)、扉枠、窓格子(写真10)、一階柱列、腕木のいず れか1つ該当すれば有りと数えた。

MZ内では、3階傾斜庇タイプで3/4(19/26 例)の町家に木彫が確認された。また、MZ内外にかかわらず、傾斜庇グループで過半(MZ内35/54 例、MZ外20/39 例)にあった。水平庇グループでは、MZ内では少ないが(2/17 例)、MZ外ではやや高い割合で木彫が見られた(9/22 例)。大半は窓枠の木彫だが、これはRC造でも取り入れやすいと考えられる。

木彫のある部位のうち、最も特徴的と考えられる窓格子は、MZ内 (24/76 例)が MZ外(7/62 例)より多い。特に MZ内3階傾斜庇タ イプ(13/26 例)に多く見られ、建替えと考えた4階傾斜庇タイプ (MZ内0/9 例、MZ外1/7 例)、水平庇グループ(MZ内1/17 例、MZ外 1/22 例)には、ほとんど見られない。

(7)【エレメント】水平帯(蛇腹/大引き小口)(図 18):2階/3階間の蛇腹の有無を集計した(写真 11)。また、比較的古い建物では、蛇腹の代わりに大引きの木口が水平に並んで露出している(写真 12)。構造材だが外観に影響するので、本項目で集計した。

計画系 744号





Photo 12 Cutting edge of joists expoesed at floor levels

大引の木口は MZ 内のほうが、やや多い (MZ 内 10/76 例、MZ 外 6/62 例)。MZ 内外に関わらず、傾斜庇グループ全体に見られたが、 水平庇グループには、1 例しか見られない。蛇腹は、傾斜庇グルー プでは MZ 内で割合が高いが (MZ 内 37/54 例、MZ 外 15/39 例)、水平 庇グループでは反対に MZ 外でやや高い割合 (MZ 内 10/17 例、MZ 外 16/22 例)で見られた。以上の傾向は、グラフ掲載は省くが、1 階 /2 階間の集計でも同じである。

#### 8. 建設年代と増築年代による庇タイプの検証

以上に見たように図9の底タイプ間全体の増築・建替え仮説は、 庇グループ間あるいは底タイプ間の比較で、外観意匠要素の持ち方 の違いや特徴をよく説明した。それ故、仮説はおおむね妥当と考え られる。以下では、建設年代および上階増築年代の閉き取り結果 を底タイプによって分析する一方で、仮説の追加検証も行いたい。 ネパールでは2015年4月ネパール・ゴルカ地震以前の100年間に 1934年1月ビハール・ネパール地震、1988年8月ネパール・インド 国境地震の二度の大地震が発生している。地震被害は、建物の再建 の契機となる場合も多いため、3度の被災年を建設年代、増築年代 の区切りとして聞き取り調査を行った結果について底タイプごとに 図19、図20に示した<sup>進25)</sup>。

建設年代を見ると、MZ 内外で共通の特徴が見られる。傾斜庇グル ープは、3 階傾斜庇タイプ (MZ 内 16/26 例、MZ 外 5/10 例)と3,4 階 傾斜庇タイプ (MZ 内 12/19 例、MZ 外 13/22 例)で、1933 年以前が 過半数を占めるが、建替えと推定した4 階傾斜庇タイプでは、1934-1987 年か1988-2014 年建設(不明を除き合わせて MZ 内 5/7 例、MZ 外 6/7 例)がほとんどを占めている。水平庇グループは、1988-2014 年建設(MZ 内 11/17 例、MZ 外 21/22 例)が大半である。図7 で組積 造中心であった3 階建て庇なしタイプは、建設年代でも傾斜庇グル ープに似た内訳を示している。

増築と建替えはどちらかを選ぶことになり、現状変更の傾向を見 るには、同じ年代の建替え軒数と増築軒数を合わせて考える必要が ある。1934-1987年を見ると、傾斜庇グループではMZ外では増築(2 例)は僅かで建替え(11例)が主流だが、MZ内では建替え(14例) に対する増築(10例)の割合が相対的に高くなっている。 1988-2014年は、傾斜庇グループではMZ内外とも建替え(MZ内 7/54例、MZ外4/39例)より増築(MZ内10/54例、MZ外10/39例) が多い。これは伝統的な町家様式で建替えが行われなくなり、耐震 的にも有利なRC造での建替えを選択したからである。特にMZ外では、 1988-2014年で、水平庇グループによる建替え(21例)が、傾斜庇 グループの増築(10例)と傾斜庇グループによる建替え(4例)を上 まわる。一方で、MZ内では水平庇グループによる建替え(11例)は、 傾斜庇グループの増築(10例)と傾斜庇グループによる建替え(7例) )を合わせた現状変更件数よりは少ない。この背景には、1979年の 世界文化遺産登録によって、MZ内は水平庇グループによる建替えを 避けた可能性があることを指摘しておきたい。上記の1988-2014年 のMZ内傾斜庇グループの増築10例のうち9例が、図9で増築と考 えた3,4階傾斜庇タイプであることは、増築仮説と合致する。

最後に水平庇グループに増築事例が、ほとんど無いことに注目したい。つまり、図9の仮説の一部を修正する必要がある。水平庇グループの3階水平庇タイプから、3,4階水平庇タイプへの増築推定は誤りで、組積造の庇タイプからの混構造による増築またはRC造による建替えと考えるべきである。図9にその旨、修正を加えた<sup>注26)</sup>。

#### まとめ

本稿の成果と得られた知見は以下のようである。

1) ネパールの町家の外観意匠調査シートを作成した。

 町家の各階用途の階層性を踏まえた上で、庇タイプという概念を 導入し、調査地区の3階以上の町家で7種類の庇タイプを得た。

3) 庶タイプ間の関係性に着目して、町家の階数増築・建替えプロセスの仮説を提出した。庶タイプにより外観意匠調査の結果を整理したところ、庇タイプごとに外観意匠の特徴がよく現れる結果を得た。これより増築・建替えプロセス仮説の妥当性が立証されたと考えたが、実際に増築年代を聞き取った結果から、水平庇グループの増築が希なことが判明し、仮説の一部を修正した。

4) MZ 内外とも庇タイプの庇設置階が上がると間口幅は狭くなる傾向があった。通常、建替えや建て詰まりが進めば建物の敷地面積や間口幅が狭くなることが予想されるため、庇タイプは都市空間の更新を示す指標としても有用な可能性がある。

5) MZ 内外の外観意匠の特徴を庇タイプごとに比較を行った。特に 傾斜庇グループでは、各庇タイプにおいて MZ 内でおおむね MZ 外よ り伝統的な意匠をよく残していることが分かった。

6)4階傾斜底タイプ、水平底グループは、組積造3階建ての原型的な町家の姿から建替えを経ている。しかし、それらにも外壁仕上げ、 木彫窓、蛇腹は、MZ内外で高い割合で出現していた。

本稿では外観意匠要素を個別に分析したが、次稿では要素間の典型的な組み合わせを割り出し、建物単位で外観意匠類型を考察したい。調査地区付近には、2015年ネパール・ゴルカ地震で倒壊した町家も多く、こうした建物の再建指針の一助としたいためである。

#### 謝辞

本稿の現地調査は、科研費基盤(B) 海外: 課題番号 15H05225( 代表者: 山本直彦) と H26 年度大林財団研究助成(No. 17 代表者: 増井正哉)による。ここに記して謝意を示す。

#### 参考文献

 Mukai, Y. et al: Observation of Damaged Buildings and the Distribution on the South East Area of the Old Town in Bhaktapur, INTERNATIONAL CONFERENCE ON EARTHQUAKE ENGINEERING AND POST DISASTER RECONSTRUCTION PLANNING (ICEE-PDRP 2016), pp. 236-243, 24-26 APRIL 2016, BHAKTAPUR, NEPAL

2) Miyauchi, A. et al: Planning Typology of Urban Dwellings and Their Development Process Found within a Votary area to the House Guardian Deity and Distribution of Inhabitants' Surname, Journal of Architecture and Planning (Transactions of AIJ), No. 741, pp. 2843-2853, 2017. 11 (in Japanese)

宮内杏里ほか:屋敷神の礼拝圏と職業姓の分布から見た都市型住居の平面 類型とその発展過程,ネパール・バクタプルにおける生活空間と都市組織 に関する研究その2,日本建築学会計画系論文集,第82巻,第741号, pp. 2843-2853, 2017.11

- Gutschow, N. and Kolver, B.: Ordered Space, Concepts and Functions in a Town of Nepal, Wiesbaden: F.Steiner Verlag, 1975
- Pruscha, C.: Kathmandu Valley, The Preservation of Physical Environment and Cultural Heritage, A protective inventory; Vol. I and II, Schroll, 1975 (reprinted by Vajra Publication in 2015)
- Gutschow, N.: Architecture of the Newars: A History of Building Typologies and Details in Nepal (3 Volumes), SERINDIA Publications, 2011
- 6) Nippon Institute of Technology Research Mission for the Study of Old Royal Palaces of the Kingdom of Nepal: City and Royal Palace of Nepal, 1983 (in Japanese) 日本工業大学ネパール王国古王宮調査団:ネパールの都市と王宮,ネパー ル王国古王宮調査報告書, 1983
- 7) Sato, M.: Himalayan Temples, Kajima Institute Publishing, 2012 (in Japanese) 佐藤正彦: ヒマラヤの寺院, 鹿島出版会, 2012
- Prajuli, Y. K.: Bhaktapur Development Project, Experiences in Preservation and Restoration in a medieval Town (1974-1985), Bhaktapur Development Board, 1986
- 9) Toffin, G.: Man and His House in the Himalayas Ecology of Nepal, Sterling, 1991
   10) Hara Lab., Tokyo University: Theory on Housing Cluster 4, Structuralism Thoughts
- on the Settlements in Indian and Nepal, SD Special Issue No. 10, 1978 (in Japanese) 東京大学生産技術研究所・原研究室:住居集合論4 インド・ネパール集落 の構造論的考察, SD 別冊 10 号, 1978
- Korn, W.: The Traditional Architecture of the Kathmandu Valley, Ratna Pustak Bhandar, 1976
- 12) Scheibler, G.: Building Today in a Historical Context Bhaktapur Nepal, Ratna Rustak Bhandar, 1988
- 13) Taniuchi, M., Shiotani, T.: Tradition and Changes in Spatial Concepts Which Has Created Dwelling Houses of Newar People – A Case Study on Kirtipur in Kathmandu Valley, Nepal -, Journal of Architecture and Planning (Transactions of AIJ), No. 638, pp. 839-846, 2009. 4 (in Japanese)

谷内麻里子・塩谷壽翁:ネワール族の住まいをつくりだす空間概念の連続 性と変化-ネパール・カトマンドゥ盆地のキルティプールの場合-,日本 建築学会計画系論文集,第74巻,第638号,pp.839-846,2009.4

14) Kurotsu, T. et al : On Facades of the Town Houses in Tangal Block in Patan,

Proceeding of the architectural research meetings, Kanto Chapter, Architectural Institute of Japan, pp. 369-372, 2004 (in Japanese)

黒津高之ほか:パタン市タンガル街区における町家のファサードについて, 日本建築学会関東支部研究報告書, pp. 525-528, 2003、および、牧野るみ ほか:パタン市タンガル街区における町家の付柱の意匠について,日本建 築学会関東支部研究報告集, pp. 369-372, 2004

- 15) Ranjitkar, R. K.: Heritage Home Owner's Preservation Manual Kathmandu Valley World Heritage Site, Nepal, UNESCO Bangkok, UNESCO Kathmandu, 2006
- 16) Ueno, K. and Masui, M. et al: Report on Important District of Cultural Conservation for Group of Buildings in Matsuyama Kam, Uda City, 2001 (in Japanese) 上野邦一,増井正哉ほか: 松山・神戸地区伝統的建造物群保存対策調査報 告書, 字陀市, 2001

注

- 注1) http://whc.unesco.org/en/list/121/multiple=1&unique\_number=1448 から危機遺 産入り対策で作成された2006年付けのバクタプル MZの提案範囲を記した 地図が取得できる。地図では、MZ はコアとバッファとして記載されている。 一方、上記 webページではコアは現在、プロパティと表記されている。これは、 世界文化遺産 MZ 内の中核となる重要な個別建物を指しており、本稿ではプ ロパティと表記する。日本語では「世界遺産の資産」や「構成資産」とされる。
- 注2) 本稿の調査範囲を含むバクタプル東部全体の被害状況は、参考文献1を 参照されたい。東部全体では南側で多くの建物が倒壊し被害が大きい。
- 注3)図1の広場右のSuryamadhi通り、広場左下への道が主要街道である。
- 注4) バクタプルの形成史については、参考文献3, p.16を参照。
- 注 5) フレーム、シルエット、パート、エレメントの4階層の枠組みは、参考 文献 16 等を参考にした。
- 注6)参考文献12, pp.62-64。マッラ様式とは2階階高の低い3階建てで、開 口部も高さ方向が押さえられるが、シャハ様式は2階階高や開口部の高さ が大きくなる。ラナ様式は、新古典様式と考えてよい。同文献には階数の 増加と時代変遷の模式図が掲載されている。同図は参考文献2,図15にも 再掲したので参照されたい。
- 注 7) 参考文献 12, p. 72
- 注 8) 参考文献 12, pp. 62-64
- 注 9) 参考文献 15, p.50
- 注 10) 参考文献 7,p.52
- 注11) 参考文献15, p.111
- 注 12) 参考文献 15, p. 119、および参考文献 12, p. 155 掲載 Fig. 59 参照。
- 注 13) 参考文献 12, pp. 154-156
- 注14)参考文献11, p.35のFig.3.4を参考とした。3軒の町家が並ぶ図で、 開口部のかたちから左がマッラ様式、中央が次のシャハ様式で2階開口部 が縦長になっており、右がその後のラナ様式。
- 注15)参考文献15, p.83では、現代的なガラス窓でも、木製窓格子を取り付けることが推奨されている。
- 注16)「プロパティ」については、注1を参照されたい。
- 注 17) 参考文献 15, p.25
- 注 18) 参考文献 10, pp. 130-131
- 注 19)3 階傾斜庇タイプと言う場合、3 階建てのみでなく、4 階建て、5 階建て だが、3 階にのみ傾斜庇を設置するものを含んでいる。
- 注 20)3 階建て庇なしタイプが、全てレンガ造なのは、おそらく庇のあった4 階以上の階が、地震の影響で倒壊したか取り壊されたことを示している。
- 注 21) 図 11 の間ロ寸法の閾値については、図 12 の箱ひげ図で横軸類型の各四 分位点を拾い出し、近い値を統合して決定した。
- 注 22) 屋根形状の集計に 0.5 端数が出るのは、間口分割所有された町家で当 初の立面は分割していないが、増築階とその屋根を別々に増築している場 合があるからである。1 階開口部等の集計の端数も同様の理由による。
- 注 23) 参考文献 12, p. 108
- 注 24) 参考文献 10, pp. 130-131
- 注 25) 図 19 建設年代で n.a. は、居住者不在で未調査を示す。図 20 増築年代 の unknown は、聞き取りはしたが増築年代不明を示す。目視で明らかに増 築されているが、居住者不在で聞き取りできない場合が、MZ内5棟、MZ外 5 棟あったが、図 20 では掲載を省略した。
- 注26) 混構造の場合、図9の3,4 階水平庇タイプの3 階庇は、3 階傾斜庇タイ プの屋根裏を増築・室化した際にできた4 階床のスラブ・梁をRC 造で増築 すると同時に床スラブを張り出してできた4 階バルコニーと考えられる。

# EXTERIOR DESIGN OF TOWN HOUSES AND THEIR EXTENSION/RECONSTRUCTION PROCESS WITH REGARD TO EAVES TYPES IN A WORLD CULTURAL HERITAGE SITE OF A NEPALI CITY

The case study on inside and outside monument zone in the eastern part of Bhaktapur

## Naohiko YAMAMOTO<sup>\*1</sup>, Kayo TAKAHASHI<sup>\*2</sup>, Masaya MASUI<sup>\*3</sup>, Anri MIYAUCHI<sup>\*4</sup> and Yoichi MUKAI<sup>\*5</sup>

\*1 Assoc. Prof., Faculty of Human Life and Env., Nara Women's Univ., Dr.Eng.
 \*2 JS Corporation, B.A. Human Life and Environment
 \*3 Prof., Grad. Sch. of Human and Environmental Studies, Kyoto Univ., Dr.Eng.
 \*4 Doctoral Candidate, Graduate School of Human Culture, Nara Women's Univ., M.A.
 \*5 Assoc. Prof., Grad. uate school of Engineering, Kobe Univ., Dr.Eng.

The paper deals with the exterior design of town houses both inside and outside monument zone of the eastern part of Bhaktapur in Kathmandu Valley registered as a World Cultural Heritage site in 1979. This paper consists of following four steps.

1) Firstly, authors composed the original format of survey sheet for Nepali town houses. The categories of this sheet are grouped into four items, which are frame, silhouette, part and element, each of which contains more detailed categories. The survey sheet was completely made from scratch with reference to the several important existing researches. The number of samples are 104 buildings inside Monument Zone (core + buffer zone) of World Cultural Heritage and 73 buildings outside Monument Zone. More than 90 % of the total sample buildings are classified as townhouses.

2) Secondly, the paper tries to submit a hypothesis on that either a town house experienced the extension of the upper floors or totally reconstructed during the course of time. Authors propose 'eaves types' as the key idea in this hypothesis. Eaves types are classified into 8 types depending on which floor level eaves are attached to. Eaves types are classified into three upper level groupings, i.e. pitched eaves group, flat eaves group and without eaves group. As for structure, pitched eaves group are basically masonry construction as opposed to the RCC construction (confined masonry) or mixed structure (masonry wall + RCC beams, masonry + RCC rooftop) for flat eaves group. In addition, three-storey buildings of without eaves group turned out to be masonry construction and four-storey buildings of the same group chiefly consist of RCC construction. The former eaves type shows similar characteristic to pitched eaves group. So does the latter to flat eaves group.

Regarding the relations among eaves types, the paper made an attempt to establish a diagram that explains the transition among important eaves types whether an eaves type is reconstructed or just upper floors are extended.

3) Result of the exterior design survey is primarily compared between inside and outside Monument zone of world cultural heritage. Further analysis is conducted by two levels as needed, i.e. comparison among eaves group and that among eaves types. The items to be examined here are frontage, roof shapes, roofing materials, finishing on the first floor wall, openings on the first floor as well as on the third floor, wood carving, window lattice and cornice between the second and the third floor. The result turned out show distinct characteristics among eaves types or eaves groups that led authors to provisional proof of the hypothesis with eaves types.

4) Eaves types are finally confirmed with the construction period and upper floor extension period. In Nepal, for the past one century, prior to Nepal-Gorkha earthquake in April 2015 earthquake, two devastating earthquakes happened. They are Bihal-Nepal Earthquake in January 1934 and India-Nepal border region earthquake in August 1988. These years are applied to separation of periods for recovery from the disaster was the chances to reconstruct the affected buildings. The result of the comparison of reconstruction/extension periods with eaves types again very well explained the characteristics of each eaves type.

(2017年3月5日原稿受理, 2017年10月30日採用決定)